

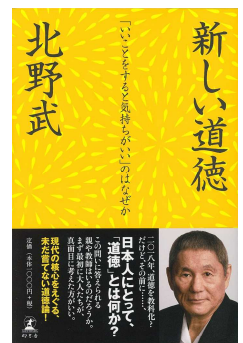


子どもの生活に根ざした、本物の道徳教育を! 道徳の「特別の教科」化を前に、道徳について考えよう

●「道徳を他人まかせにしちゃいけない」

9月に北野武さんが書いた『新しい道徳』(幻冬舎)という本が話題になっています。学校の道徳教育について、痛烈に、痛快に批判しています。道徳の教科化を前に、私たちも大いに考えさせられる本です。後書きの一部を紹介します。

道徳教育を徹底しないと、子どもがおかしくなってしまうなんていうのは、年寄りの錯覚でしかない。錯覚でしかないのだけれど、彼らはそれを「いいこと」だと思い込んでいる。だから、それを子どもたちに教え込もうとする。いいことをすると気持ちがいいから。そんな年寄りの戯言に耳を貸す必要はない。古くさい道徳を子どもに押しつけたって、世の中は良くなんかならない。そんなことより、自分の頭で考え、自分の心で判断できる子どもを育てる方が大切だろう。そのためには、まず大人が自分の頭で考えることだ。道徳を他人まかせにしちゃいけない。



私たちも、子どもの教育に責任を持つ教職員として、道徳を他人まかせにすることはできません。組合でも、道徳教育のあり方について、釧路合研のテーマ討論で議論したり、北海道道徳教育フォーラムに代表派遣したり、学習、討議をしてきました。

●9.14釧路革新懇9月例会～国が進める道徳教育の問題点を確認しました

釧路革新懇9月例会では、教育大戸田先生が安倍政権の教育政策について報告したあと、斎藤書記次長が道徳教育の問題点について報告しました。「私たちの道徳」を取り上げながら、様々な手法で一定の価値観(規範意識、公共の精神、愛国心)へと誘導していることなどを指摘しました。合わせて、教科学習の教科書も道徳教育の影響を受けていることを指摘しました。そして、道徳教育では、自分や世界が分かり、自分らしく、人間らしく生きることを励ます教育をこそ大切にしたいとの思いを参加者と共有しました。組合員、元組合員の先生も多数参加し、学習を深めました。



●釧路合研テーマ討論「道徳の教科化をどう考えるか」

今年の釧路合研では、道徳教育についてのテーマ討論も設定しました。パネラーは、廣田健先生(釧教大)、藤田真一先生(鶴野小)、古川晃男先生(富原小)の3名にお願いしました。この分科会には20名が参加し、学び合いました。

始めに廣田先生が、道徳の教科化に至る歴史を端的に報告し



